

平成27年のアユ資源調査結果概要

寺井 章人・井出 充彦・田中 秀具・井戸本 純一・
臼杵 崇広・吉岡 剛・幡野 真隆・佐野 聡哉・田口 貴史

1. 目的

アユの資源水準や成育状況を評価するため、魚群調査、産卵状況調査、ヒウオ生息状況調査および成育状況調査を実施した。

2. 方法

魚群調査では、1月から8月まで毎月1回、北湖の水深30m等深線付近の定線調査コース上に出現する魚群数を観測した。

産卵状況調査では、8月から10月にかけて5回、北湖に流入する11河川の産卵場においてアユの産卵量を調査した。

ヒウオ生息状況調査では、10月から12月まで毎月1回、北湖において網口1m×2mの

角形幼生網による1,000mの水平曳きを18回
行い1曳網あたりのヒウオ採集尾数を求めた。

成育状況調査では、エリとヤナの漁獲標本
を収集し、体長等を測定した。

3. 結果

魚群数は平年の16～97%で推移した(図1)。

産卵量は97.1億粒で平年の約86%であった

(図2)。ヒウオ生息密度は平年の50～748%

で推移した(図3)。漁獲魚の平均体長は、ヤ
ナの3、7、8月、エリの4月で平年をやや下
回ったが、ほぼ平年並みの推移だった(図4)。

これらの調査結果は水産試験場ホームペー
ジに掲載し、漁業関係者等へ情報提供した。

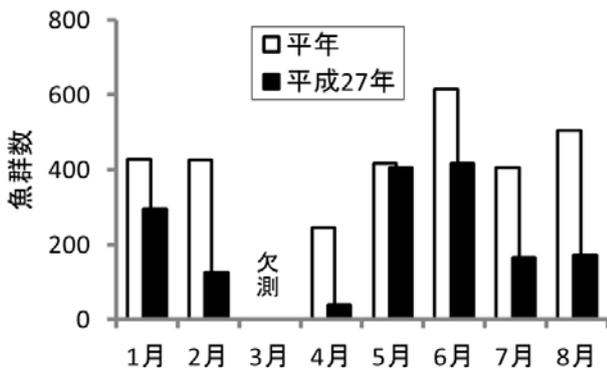


図1 魚群数の推移

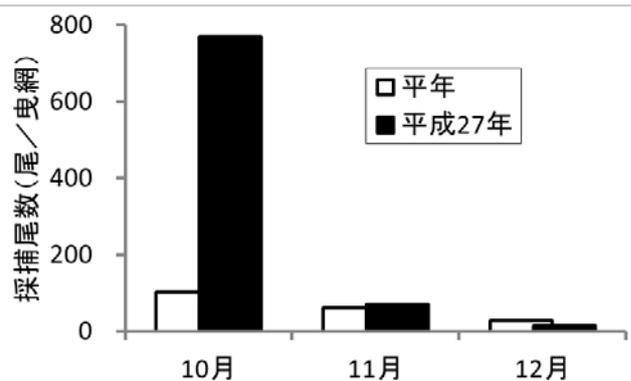


図3 ヒウオ生息密度

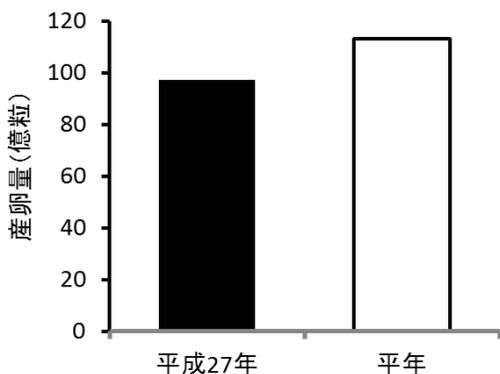


図2 天然河川における産卵量

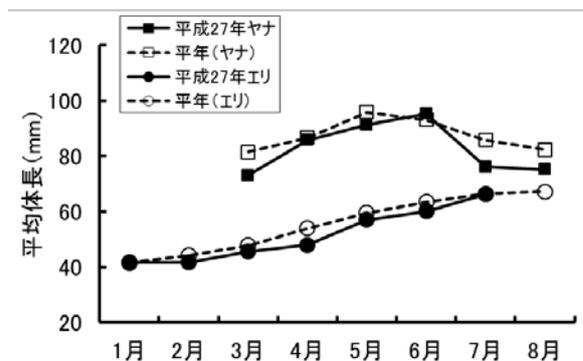


図4 エリヤナ漁獲魚の平均体長

平年とは過去10年から最大最小値および欠測年を除いた平均値